

## コンピュータ利用の語学教育

正田・保崎

「パーソナルコンピュータの研究と教育への活用に関する研究」で、現在の状況は次の通りです。

### 1) テキストファイルのデータベース化

語法・表現研究のために、記憶媒体上の通常の文書をデータベースとして利用するのに必要なプログラムの作成。文書処理言語awkを使用して作成したもの数点あり。

### 2) パソコンによる英語演習プログラム

リーディング速度を自由に設定できるペースメーカー、スベリングテストプログラム等をawkで作成し学生に使用してもらい、実験中。問題点を検討、改善の上で汎用言語に移植する予定。

### 3) 教材作成における活用

時事英語の教材として最新のニュースを記録媒体上のデータのかたちで取得する方法として、文字放送のパソコンへの取り込み（市販ソフトによる）及びパソコン通信を通じての英字新聞記事の取得。それらの教材化も一部実験中。

### 4) 文書処理への活用

ワープロ、パッケージソフト等では果たし難い文書整形に必要なプログラム。事の性質上 one task one program が原則であるために作成プログラムは多数にのぼるが、当然汎用性に欠ける。むしろ臨機応変のプログラミングのコツとして残るもの。

---

### 共同研究経過報告未提出グループ

- (1) 「教授メディア研究」(小池栄一・保崎則雄・水野光晴)
- (2) 「企業内語学教育」(田久保浩平・デビッド・ハフ(学外))